

タバココナジラミの薬剤感受性

1. 目的

各種野菜類でタバココナジラミが発生し、すす病とともにタバココナジラミが媒介するウイルス病の多発も問題となっている。ウイルス病の媒介防止には高い防除効果が求められることから、タバココナジラミに対する薬剤の感受性を検定し、防除のための基礎資料とする。

2. 調査方法

- 1) 採集場所：今治市（ミニトマト2圃場）、松山市（トマト1圃場）、大洲市（キュウリ2圃場）
- 2) 検定期期：令和5年11～1月に成虫を採取し、試験に供試した。
- 3) 供試薬剤：表1のとおり

表1 供試薬剤

IRAC コード	薬剤名	供試 倍数
4A	ダントツ水溶剤	2000
	モスピラン顆粒水溶剤	2000
	アルバリン顆粒水溶剤	2000
4C	トランスフォームフロアブル	1000
5	ディアナSC	2500
	アニキ乳剤	1000
6	アフーム乳剤	2000
	コロマイト乳剤	1500
	マッチ乳剤	2000
15	カスケード乳剤	4000
	ノーモルト乳剤	2000
21A	ハチハチフロアブル	1000
28	ベネビアOD	2000
29	ウララDF	2000
30	グレーシア乳剤	2000
34	ファインセーブフロアブル	1000

4) 試験方法

初生葉が出たインゲンの苗を切断し、サンプル瓶に水挿し後、パラフィルムで瓶の口をふさいだ。そして、タバココナジラミ成虫約30頭とともに小型プラスチックケースに入れ、25℃、15L:9D条件下で24時間産卵させた後、成虫を除去した。2齢幼虫になるまで保管した後に、供試薬剤の薬液に30秒間浸漬処理し、風乾した。水処理区の個体が4齢幼虫まで発育した時に実体顕微鏡下で生死を調査し、水処理区の生存率から補正死亡率を算出した。試験は1区2反復で行った。

3. 結果の概要

- 1) タバココナジラミ2齢幼虫に対して感受性の高い剤は、ディアナSC、アニキ乳剤、アフーム乳剤、コロマイト乳剤、ベネビアODであった。グレーシア乳剤、ファインセーブフロアブル、ディアナSC、ハチハチフロアブルは、地点によるばらつきはあるが、比較的感受性は高かった。その他の薬剤は、どの地点についても感受性は低かった。
- 2) 以上のことからIRACコード4Aや15の剤は、グループ全体の感受性が低下している可能性が示唆された。

表2 タバコナジラミ幼虫に対する薬剤の感受性

薬剤名	IRAC コード	供試 倍数	補正死亡率(%)				
			今治1 ミニトマト	今治2 ミニトマト	松山 トマト	大洲1 きゅうり	大洲2 きゅうり
ダントツ水溶剤		2000				41.7	
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2000	55.6	57.2	49.5		
アルバリン顆粒水溶剤		2000		32.4			
トランスフォームフロアブル	4C	1000		32.9	56.8	34.3	
ディアナSC	5	2500	94.4	68.7	98.6	100	100
アニキ乳剤		1000		99.0		96.9	100
アフーム乳剤	6	2000	100	89.1	100	96.6	
コロマイト乳剤		1500	99.1	100	100		100
マッチ乳剤		2000		73.6	20.5	32.7	8.4
カスケード乳剤	15	4000			44.0		
ノーモルト乳剤		2000				17.7	
ハチハチフロアブル	21A	1000			23.9	94.1	72.1
ベネビアOD	28	2000	94.8	100	94.4	97.9	98.8
ウララDF	29	2000	10.9	11.8	40.4	33.4	11.0
グレースシア乳剤	30	2000	93.6	75.9	88.9	99.0	100
ファインセーブフロアブル	34	1000	98.7	93.5	76.8	93.2	

注) 補正死亡率(%)=(水処理区の生存率-処理区の生存率)/水処理区の生存率×100

注) 計算上マイナスの補正死亡率は0とした